

[水田作部門]

2. 岡山県における発酵粗飼料用水稲品種の生育特性

[要約]

発酵粗飼料用水稲 6 品種の生育特性を比較した。「たちすずか」は、全重収量は他の品種と概ね同等であるが、茎葉収量が多く耐倒伏性が強いことから有望である。

[担当] 作物・経営研究室

[連絡先] 電話086-955-0275

[分類] 情報

[背景・ねらい]

県内の発酵粗飼料（WCS）用水稲生産において、飼料用品種が作付け可能な地域では、現在、主に「ホシアオバ、クサノホシ」が用いられている。しかし、「クサホナミ、はまさり、たちすずか、リーフスター」等の品種もこれまでに育成され、特に「たちすずか」は、牛に消化されやすい茎葉の割合を高めたWCS用有望品種とされている。そこで、これら 6 品種の生育特性を比較し、地域における今後の作付品種検討に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 黄熟期は「ホシアオバ」が最も早く、次いで「クサホナミ、はまさり」、「クサノホシ、たちすずか」と続き、最も遅い「リーフスター」では、「ホシアオバ」に比べ 3 週間程度遅い（表 1）。黄熟期における全重収量は「はまさり」で少ないが、その他は概ね同等である。ただし、茎葉収量は「たちすずか」が最も多い（図 1）。
2. 「たちすずか」は、出穂期が 9 月 3 日頃、黄熟期は 10 月 10 日頃で、他の品種に比べ穂収量が少なく、概ね 2 倍の茎葉収量が得られる。ただし、機械収穫で刈り残されやすい地際 10cm 以下の茎（下茎）重も多い（図 1）。
3. 「たちすずか」は、黄熟期になっても穂があまり下垂せず、直立的な草姿である（図 2）。また、多肥栽培にして収穫を遅らせても、「ホシアオバ、クサノホシ」と比べて倒伏しにくい（表 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 農業研究所（赤磐市）において、2010 年は 6 月下旬に中苗を、2011 年は 6 月中旬に稚苗を、栽植密度 18.5 株/m² で移植した結果である。
2. 慣行に準じた病虫害防除法では、問題となる病虫害発生は認められなかった（データ省略）。
3. 本結果は生育特性を示しており、WCS 原料としての評価には、サイレージにした上で飼料成分や発酵品質、牛への給与結果等を総合的に検討する必要がある。

[具体的データ]

表1 出穂期と黄熟期における生育

品種	出穂期(月/日)		黄熟期(月/日)		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)
	2010年	2011年	2010年	2011年		
ホシアオバ	8/25	8/20	9/26	9/22	129	205
クサホナミ	8/28	8/28	9/30	10/2	120	211
クサノホシ	9/1	8/31	10/10	10/6	131	196
はまさり	9/2	8/31	10/5	10/1	111	304
たちすずか	9/4	9/2	10/11	10/9	142	262
リーフスター	9/8	9/7	10/16	10/14	135	204
(参考)アケボノ	9/3	8/31	10/14	10/6	121	332

注) 草丈と茎数は2010年と2011年の平均値

2010年は施肥窒素量9kg/10a、2011年は同10kg/10a

表2 黄熟期以後の倒伏進展(2011年)

品種	施肥	倒伏程度(0無-4全)			
		黄熟期	11/1	11/21	12/21
ホシアオバ	標肥	0	0	0.3	2.3
	多肥	0	1.3	2.0	3.0
クサノホシ	標肥	0	0	0	0.5
	多肥	0	1.5	2.5	3.3
たちすずか	標肥	0	0	0	0
	多肥	0	0	0	0

注) 施肥窒素量(kg/10a): 標肥区10、多肥区20

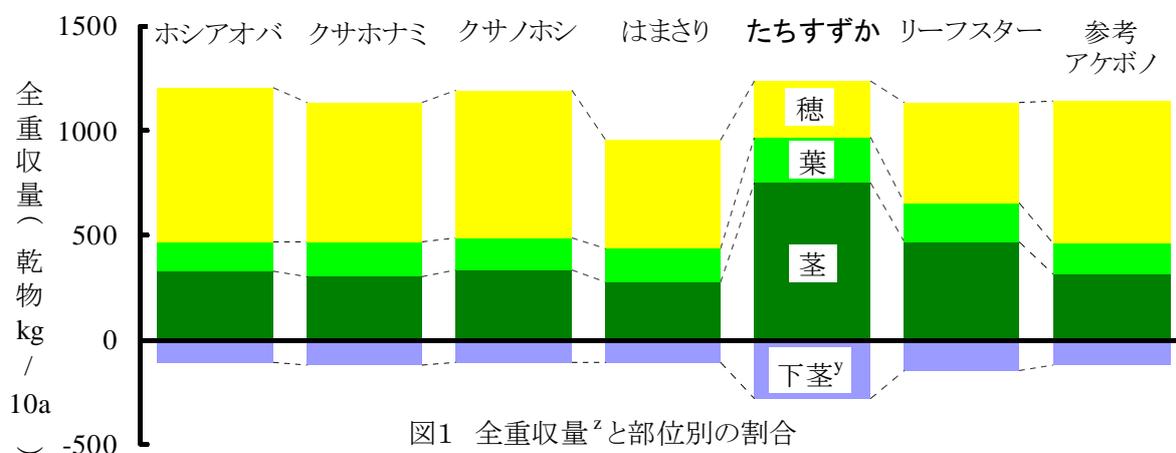


図1 全重収量^zと部位別の割合

^z 2010年(施肥窒素量9kg/10a)と2011年(同10kg/10a)の平均値

^y 収穫機械による刈取を想定し、茎のうち地際10cm以下は「下茎」として、全重収量からは除外、クサホナミ、はまさり、リーフスターの下茎は2010年のみ調査



図2 各品種の草姿(2011年10月4日撮影)

[その他]

研究課題名: 発酵粗飼料に対応した水稻の品種選定と低コスト栽培法の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2010~2011年度

研究担当者: 渡邊丈洋